

～ 1 9 9 4 ～

ホテル・ルワンダ

HOTEL RWANDA

映画で考える 「世界の無関心と、見捨てない勇気」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 世界は、なぜ動かなかったのか

戦争や虐殺は、武器を持つ人だけでなく、**それを知りながら何もしない人々**によっても続いてしまうことがあります。1994年、アフリカのルワンダで実際に起きた出来事です。

 「遠くの出来事」を、自分ごとに。 ルワンダ虐殺（1994年）

約100日間で80万～100万人が殺害されたとされます。ラジオ放送が「敵」をあおる言葉を流し続け、普通の人々まで虐殺に加わっていきました。国際社会は、素早く動くことができませんでした。

※「フツ」「ツチ」という区別は、植民地時代に強められたものです。今のルワンダでは、民族の区別を強調しない政策がとられています。

2 「見捨てない」を考える4つの視点

 ① 憎しみをあおる言葉

ラジオの言葉が、普通の人々を動かしてしまった。

 ② 「かわいそう」で終わる

ニュースを見ても、何もしないまま過ごしてしまう。

 ③ 決められない世界

国連や大国は、すぐに行動できなかった。

 ④ 自分にできること

遠くの出来事を、自分ごととして考える。

3 映画『ホテル・ルワンダ』とは

あらすじ（実話がもと）

首都キガリの高級ホテルで支配人を務めるポールは、有力者とのつきあいを大切にしてきたビジネスマンです。ある夜、虐殺が始まります。ポールは家族や行き場を失った人々をホテルにかくまい、外国の軍隊が自国民だけを連れて去った後も、人脈やお金、知恵をすべて使って人々を守ろうとします。

映画と現実

モデルとなった人物は、映画で世界的に知られるようになりました。一方で、生存者の中には異なる見方をする人もいます。映画は「実話をもとにした物語」です。複数の情報にあたる姿勢も大切にしましょう。

見るときの心がまえ

とてもつらい場面が出てきます。気分が悪くなったら先生に伝えてください。「自分がその場にいたら」「ニュースで見ていたら」と想像しながら見ましょう。

4 「見捨てない」ワーク

映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① ポールが人々を守り続けられたのは、なぜだと思う？

② 世界の国々が動かなかった理由を、2つ以上考えよう

③ 「かわいそう」で終わらないために、自分にできることは？

④ 特集8本をふり返って、平和のためにいちばん大切だと思うことは？

5 ふりかえり

虐殺は、_____によっても続いてしまうと分かりました。これから、遠くの国の出来事をニュースで見たときは、_____をしたいです。

 『遠くの出来事』を、自分ごとに。」

先生・保護者へ：『ホテル・ルワンダ』は、虐殺の遺体や暴力の場面を含みます（直接的な描写は比較的抑えられています）。本資料は中学生以上を想定しています。年齢区分は上映前に確認してください。「フツ」「ツチ」を固定的な民族像として教えないよう注意し、モデルとなった人物をめぐる評価が分かれていることも必要に応じて伝えてください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。